

et pesora 地域おこし協力隊コラム
大石田町エトペソラ

コラム初投稿になります。初めまして、4月に地域おこし協力隊に着任した大野達也と申します。家族3人で大石田町に引越して来ました。妻の大野あかねも地域おこし協力隊ですが、現在は産休に入っています。6月の中旬に第二子が生まれる予定です。

在住2ヶ月、多くの方とお話をさせて頂きましたが、一番多く聞かれた事はなんだと思いますか？正解は『大石田の雪の量は知っているの？』です。ちなみに私は知りません。ただ雪の量が凄いやう事しか知りません。皆さんが心配して言っている事はわかっていますが、私はその雪の量をとて楽しみにしています。

私の故郷神奈川県川崎市は雪の降る地方ではありません。雪がとて多く降ったとしても3日程度で、消えて無くなってしまいます。そんな私からすると、雪がたくさん降る事にわくわくして待ち遠しいとすら感じています。車の雪かきや道路の除雪なんてのも初体験です。

さて、話は戻りますが、2番目に多く聞かれた事は『大石田町はどう住みやすい？』です。私は『今の所住みやすいです』と答えています。来年の春になった時に『大石田町はどう住みやすい？』の答えが出ています。ぜひ来年春に私に質問してみてください。(大野)



SNSで大石田町のエトペソラを発信中!! / ブログ・Facebook「大石田町エトペソラ」 / Instagram「oishida_et_pesora」

消防団活動に尽力 2氏に叙勲・褒章



横山利一副町長が再任

第2回大石田町議会定例会において、横山利一副町長が再任されました。任期は令和5年6月10日までの4年間となります。



高橋静雄さんに瑞宝単光章

高橋静雄さん(来迎寺)に「瑞宝単光章」が授与されました。高橋さんは昭和48年から平成19年まで町消防団員を務められ、その間、分団長などを歴任し、災害現場での団員の指揮と予防消防に尽力されて町消防団発展に多大な貢献をされました。叙勲はこれらの功績が認められたものです。
大変おめでとうございます。



三浦清孝さんに藍綬褒章

町消防団団長の三浦清孝さん(鷹巣)に「藍綬褒章」が授与されました。三浦さんは平成22年から町消防団団長として災害発生時の指揮や日頃の予防消防にあたり、山形県消防協会北村山支部長も務められています。褒章はこれらの功績に対して贈られたものです。
大変おめでとうございます。

7月の主な行事予定

日	行事予定
1(月)	母子健康手帳交付 / 午後1時30分 / 役場相談室
6(土)	わくわくお菓子教室 / 午前9時30分~午前11時30分 / うろこや総本店尾花沢工場
10(水)	心配ごと相談 / 午後1時30分~4時 / 社会福祉協議会 行政相談 / 午後1時30分~3時30分 / 虹のプラザ小会議室1
11(木)	年金相談 / 午前10時~午後3時 / 役場101会議室 ※新庄年金事務所への事前予約が必要です。TEL 0233-22-2050
16(水)	読書会「『万葉集』を読む」 / 午前10時~午前11時30分 / 虹のプラザ小会議室2 母子健康手帳交付 / 午後1時30分 / 役場相談室
20(土)	トムソーヤの冒険 in 田沢沼 / 午前9時~午前11時30分 / 田沢沼(大堤)
22(月)	虹カフェ / 午前9時30分~午前11時30分 / 保健センター
24(水)	無料法律相談(要予約) / 午後1時30分~午後4時 / 社会福祉協議会
25(木)	農業委員会総会 / 午前10時 / 役場大会議室
27(土)	スイカオーナー収穫イベント / 午前10時~正午 / 深堀ふれあい農園
28(日)	スイカオーナー収穫イベント / 午前10時~正午 / 深堀ふれあい農園

※都合により日程が変わる場合もありますので、事前にお問い合わせください。

死亡事故ゼロ1246日目

(6月15日現在)

大石田町の事故発生状況

(1月1日~6月15日)



- 発生件数 3件 (-2件)
 - 負傷者数 4人 (-2人)
 - 死亡者数 0人 (±0人)
- ※ () は前年比

= ペダルの踏み間違いに要注意!! =
特に駐車場での運転操作は確実に。

毎月1日は「大石田町交通安全行動の日」

日曜・休日急患の当番医

7月 診療時間: 午前8時30分~午後5時

日	当番医院名	電話
7日(日)	尾花沢市中央診療所	(23)2010
14日(日)	加藤クリニック	(22)9877
15日(月)	後藤医院	(35)2034
21日(日)	さかえクリニック	(53)8181
28日(日)	尾花沢病院	(23)3637

家族の健康管理に気をつけて

あなたのニギハク

短歌

風に散る桜の花びらを手に受けるまた来年を楽しみにして
若き等に伝へねばならぬ老いとなり横山大火を町史に学ぶ
花終へてはの赤き蕊散りつものたんばく咲きし野道を歩む
猫の背を何度も何度も鋤いている冬毛を早く脱がせたいから
老体に鞭打ち耕す畑仕事茄子の初挽ぎ父母に供える
谷越しの青葉の山にひとしきり吹く風は見ゆ藤花揺らし
斑雪葉山の嶺に輝きて我も我もと代掻きはじむる
空仰ぎ「朝てつかりの昼めつ」独り言ちつ畑に出でゆく
田植える目安とされし雪形の「小国駒」見え空澄み渡る

海 伊 杜 富 佐 小 鈴 八 鈴
藤 藤 樫 々 玉 木 欽 木
忠 哲 匠 榮 昭 春 多 喜 智
男 夫 一 太郎 治 歌 喜 子 恵 美

俳句

山野萌幾人採りし蕨あり
繭白き一家で御守る絹の糸
活けられて月を待ちある花芒
新緑や白壁塀の舟着場
苺摘む吾子の手あふれ口あふれ
放牧の牛のんびりと青葉食む
薔薇庭へ招かれ子等と談笑し
芍薬を老母問ふ訪へば今ふくむ

星 土 齊 木 柏 五 青 青
川 屋 藤 村 倉 十 木 木
紀 忠 静 満 ヤ 隆 ミ 宙
一 子 子 喜 子 司 薩 女 翁